



いわて医療通信【腎臓を長持ちさせるには】

4. 腎生検

慢性腎臓病が疑われた時の検査法

これまで慢性腎臓病（CKD）の原因として糖尿病や高血圧、肥満などの生活習慣病が挙げられることを述べてきました。しかし、このような二次的な原因の結果としてCKDが起るだけではなく、腎臓自体が引き起こす病気が原因となることがあります。

腎臓専門医によって腎臓自体の病気が疑われた場合には、腎臓にどのような病気が起きているのか直接調べるのが大切です。腎臓に直に針を刺してどのような病態か診断を確定させる

「腎生検」という検査が必要になる場合があります。「腎生検」という検査が必要になる場合があります。は、年間100名以上の多数の腎生検を行っています。べさせて頂きます。

治療のためには、直接腎臓の組織を見て、どこがどのようなにおかしくなっているかを評価しなくてはならないのです。

原因のいかんに関わらず、CKDでは病状が進むと高血圧、腎性貧血（血が薄くなって全身に酸素を回せなくなる）、高カリウム血症（筋肉がけいれんし、最悪の場合心臓の筋肉もけいれんして心停止すること

も）、高リン血症（動脈硬化が進み、全身の血管が硬くなる）、アシドーシス（血液が酸性になり、全身の内臓の働きが悪くなる）といった好ましくない状態をさまざま合併します。これらは腎臓だけでなく全身に影響の及ぶ深刻な合併症です。で、腎臓専門医による管理が必要です。

検査の流れとしては、エコー（超音波）という機械を使って、モニター画面越しに腎臓を見ながら、背中から針を刺し腎臓の周りに局所麻酔を行い、腎臓の一部を取ってきて検査します。検査には約1週間の入院が必要となりますが、顕微鏡を用いて腎臓の状態を細かく検査し、診断することで、その病気に合った適切な治療法が選択できるようになります。私たち岩手医科大学腎・高血圧内科で

次回、透析について述べさせていただきます。

岩手医科大学 医学部内科学講座 腎・高血圧内科分野 講師 吉川和寛

次回、透析について述べさせていただきます。